

# 東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田  
三崎町一ノ七  
発行所  
東京歯科大学同窓会  
編集人 加藤 倉三  
発行人 九段(33)8446 (代)  
電話

## 小雨煙る青山葬儀場にて

### 奥村名譽学長の大学葬行わる

去る二月十七日、母校名譽学長故奥村鶴吉先生の大学葬が青山葬儀場にて、哀しみのうちに盛大に執り行われた。

小雨煙る青山葬儀場の式場前には日本歯科医師会、日本医師会、各歯科大学を始め各学会その他から贈ら



れた花環が立並び、定刻前より多数の参列者が続々と参集する。  
○時四十五分、御遺族を始め参列者着席を終了、定刻午後一時、田村一吉理事より開式の辞が述べられ、流経があり、大井清詞教授司式のものに、福島学長、西村本会会頭、文部大臣、厚生大臣、歯科大学代表、日本私立大学連盟代表、日本歯科医師会長、日本歯科大学学長、日本歯科大学歯科医会々長、東京歯科大学学生代表の弔辞が読まれた。時間の関係上、その他各方面よりの弔辞を省略し、同志社大学総長、米田ペンシルバニア大学学長以下三七六通の弔電を受けた報告があり、再び流経の報を、石川葬儀委員、御遺族、御親族代表の焼香が行われた。  
続いて石川葬儀委員より御遺族並びに学校を代表しての謝辞があり、葬儀を終了、午後二時より一般告別式に移った。

歯科関係、同窓校友はもとより、各方面より多数の参列者があり、一千名を数え、祭壇前に九ヶの焼香台を備え、九列の参列者は、定刻三時に至るまで引きも切らず延々と続いた。  
再び御親族代表の御挨拶があり、先生の御遺骨が御自宅に帰られる頃は雨も止んでいた。

## 大学葬の前日

二月十六日

### 母校にて御通夜

テブ・レコードに先生を偲ぶ  
母校第一講義室に、先生の御遺骨を安置し、美しく祭壇が設けられ、衆議員議長加藤敏五郎氏、ペンシルバニア歯科同窓会、日本歯科大学歯科医会、岡田満氏、東歯クラス親和会等の盛花が飾られ、午後七時流経に次いで石川委員長、御遺族、福島学長、橋本厚相、佐藤日歯会長等に続き一般の焼香があり、先生御生前、口腔衛生学会発会式での講演のテブレコードを開き、今は無き名譽学長を偲んだ。

勳三等に叙せらる  
奥村先生御生前の勳功に対し、二月四日付けを以つて、勳三等従五位が贈られた。  
先生の御遺影の前に、昨三十三年五月受けられた藍綬褒章と、位階勳位記が生前の偉大な御功績を物語つていた。  
(写真は青山葬儀場にて弔辞を読む西村会頭)

## 歯科界と母校とに

### 全生涯を捧げられた輝かしい歴史

### 歯科教育、衛生、医政に数々の業績

奥村名譽学長の一生は、歯科界並びに母校のために、その総てを捧げられた輝かしいものであった。  
先生は十九才にて歯科医術開業試験に合格され、直ちに母校の前身たる高山歯科医学院助手として勤務せられ、逝去されるまで、終始一貫母校のためその全生涯を捧げられたのである。この間実に五十九年、まさに六十年の長きに亘つて、或いは学監として、血脈先生を扶けられ、或いは校長、学長として、母校を本邦歯学の最尖端として大学の創立、大学院の設立に輝しい業績の数々を打ち樹てられたのである。

また、先生は医政面においても大きな仕事の数々を残された。  
輝しい先生の御経歴はその事実を物語つて余りあるものである。  
学者としても先生は、衛生、微生物、解剖等歯学全般に亘り、数多くの研究論文を発表されておられる。日本人歯牙の大きさ、小白歯の徴候する、「小白歯の根管」、「根管問題に関する第二の報告」英文「小白歯根管に関する研究」等があり、著書としては「歯牙解剖学」、「英和歯科用語辞典」遠藤教授との共著「歯科技工学」等がある。  
先生の研究業績として忘れることの出来ないものとして、大正九年発表の「ムシ歯を作る食物の発酵する酸に関する研究」があり、また中井武

一郎教授との共同研究になる齶蝕発生の原因菌の探求により、歯牙脱灰菌、歯牙溶解菌の発見と云う一連の大きな業績がある。先生の興された衛生細菌研究室が、今日の衛生学教室、微生物学教室と成り、今日増々発展しつゝ、あり歯科医学界に大きな貢献をなしたものである。  
他方学校衛生の面においても真剣な努力を払われ、日本聯合学校歯科医会の設立と共に理事長に就任される等、我が国学校歯科の父ともいふべきである。

先生は、晩年「大学院の設立を自分の一生の仕事とした」と談られていたが、先生の御生前に、母校新館の落成、大学院の誕生を見た事はわれ／＼として心安まる思いである。  
先生は実に「先見の明」ある方であつた。常に将来に思いを馳せられ誤り無判断を下された。戦後の混沌期に、我が国歯科教育、歯科界の進む可き路を洞察され、身を以つて陣頭に活躍されたことも我々の忘れることの出来ない所である。  
今日ここに先生御長逝の日を迎え、我々同窓一同、偉大であつた先生を今さらの如く敬慕の念をもつて偲ぶと共に、この先生の残された数多くの業績を継ぐものとして、各々その分に応じ、長年月の御訓育に報ゆるため一層の努力を御誓いしなればならないと信ずる。  
母校教職にあるものは、医育面、研究面において、臨牀家は、日々臨牀において口腔衛生の普及徹底を計ると共に、他方近く行われる地方議会、あるいは参議院議員選挙に立候補される同窓各位は、議席獲得の上正しい歯科医業権の確立に邁進せられること等が、以つてわれらの先生にお報いする道であると信ずる。

二月二十二日

第七十四回例会開催さる

去る二月二十二日、(日)水道橋の母校において、本会第七十四回例会が開催された。

開会に先き立ち、午前十一時からホールで、故血脇守之助先生の十三回忌法要が厳かな中にも、盛大に執り行われた。別項記載。

午後一時から、第二講義室で、中村幹事司会のもとに例会は開会され、西村会頭から「本日は会報で御承知の通り、血脇先生十三回忌の御法要を午前に行い、遠くは近畿地方山形、山梨、千葉からも御参列下され、意義の深い御法要が行われ一同喜んで居る。

今日は杉山教授の御話しの後には鹿島後援会のため、運営管理委員会の



専門の方から御話しを伺うことになつて居るが、皆様方の選挙活動の御参考に致し度い。鹿島君の方に何卒物心両面の御後援を御願ひする」との挨拶があり、続いて、昨秋欧米各国の視察から帰られた杉山不二教授から「欧米見聞談」と題し三時まで、美し先生撮影のカラースライドの映写と巧みな話術によつて、参会者一同、直接国外に居る気分になつた。教授は講演の終りに「かつて、花沢先生が、チューリッヒから私に絵葉書を下さつて、学校は小さいが清潔、整頓されていってうらやましいと書いて下さつたが、今も私は同様な感じである。本学も、基礎の教室を見せれば外人は必ず驚くだろう。

「数分の時間を頂き御挨拶申し上げ度い。かねて御尽力を願つて居る鹿島俊雄君の問題につき、非常に多くの同窓の方々、御協力を頂き喜んで居る次第である。いよいよ時期も切迫し、後援会に選挙対策委員会が結

成され、私としては最も不得意のことであるが看板として委員長に就任した。同窓のうちから議政壇上に立つ鹿島君の決意に對し出来るだけのことを仕度いと考へている。鹿島君のことは、選挙であるため、水橋会と云ふ名称の政治結社で仕事をす。御承知のように、鹿島君の選挙は日本歯科医師政治連盟の方から推薦して頂いて、私共は同窓として是非議政壇上に立馬してもらい度いと努力して居る。承る所による、自民党公認は歯科界から鹿島君一人だけと思つて居るが、他にも周田の事情が異なつて居る。樂觀は出来ない。皆様方今後一層の御尽力を御願ひする次第である。」

血脇先生十三回忌法要

同窓会二月例会開催に先き立つて、同日午前十一時より母校ホールにて医王院寿海仁道大居士の法要が盛大に営まれた。血脇末亡人を始め、御遺族をお迎えし、歯科界同窓より多数出席、福島学長の左の追悼の辞が読まれ、参列者一同、先生の御冥福を祈り焼香した。

追悼の辞

血脇守之助先生の十三回忌に當り茲に奥様初め御遺族御一同を御迎え申上げて御法要を営む事の出来ました事は忝に光栄具感激の堪えない処であります。

血脇先生が本学の学祖として將又日本の歯科界の育ての親として、そ

の一生を捧げられました事は単に日本に於て知られて居るばかりでなく実に世界的に認められて居る処であります。我々も亦先生の訓を受けたものとして大なる誇りと喜びとを感じて居る次第であります。

先生はよく歯科医である前に人である事を忘れるなと云われたのでした。凡百の事総てその基盤は人其のものにあるのだと訓えられました。此の御訓は我々の深く身にしみて居る処であります。

本学の宝として会議室に掲げてあります。野口博士の書「高雅なる学風千古に徹」とあります字句にも此の点がよく現はされて居ると思ふのであります。

水道橋学園に今も尚香ふ血脇先生

北村宗一氏より「今夕は血脇先生十三回忌の心からの追悼をしたい。予定の教より遙かに多数の御出席を得て、先生も定めし地下で御喜びのこと、思う」と挨拶があり、同氏の司会の下に浅春の一夕来会者一同血脇先生を偲び盡を傾けた。先づ榎本名譽会頭が立たれ「二月と云ふ月は東歯に因縁が深い。花沢先生も今日が御命日、二と四と云ふ数字に因縁がある。かつて血脇四天王と云われた奥村先生も二と四である。私共は敢えて担ぐ訳ではないが、二月と云ふ月に深い感銘を受けることであらう」と語られ、母校に飾られて居る血脇先生の大理石像の作者日展審査員、参事北村正信氏を紹介された。

次は日南会長佐藤進雄先生から「私是一口に云えば、あらゆることで血脇先生の御世話になつた。第一に私を歯科界に出して下さつたのは血脇先生であり、私のヒューマニズム、人間を作る上にいる、教を授けた。その二、三の例を申し上げると、思い出せば幾多の例を承けて話される。聞く者は一様に、人間血脇の姿に今更の様に追慕の念を禁じ得なかつた。

大阪の剛山氏、沼津の外氏、森田氏、中尾氏、松風氏、高津氏から数々の追悼談があり、最後に血脇日出男氏より「皆様の御好意に遺族一同感激している。家庭における父は厳格そのものであつた。しかしまた、優しい一面もあつた」となごやかな謝辞があり八時過ぎに散会した。

昭和三十四年二月二十二日  
東京歯科大学長 福島 秀栄

血脇守之助先生

追悼会の記

同窓会例会終了後、麹町一番町金剛飯店で先血脇守之助先生追悼会が開催された。

追悼の辞

追悼の辞

第六十回卒業式挙行さる

新たに一七八会員を迎へ

去る三月二十五日、例年の如く午後二時より母校において学部卒業式が行われた。今回は、第六十三回卒業証書授与式であり、下記一五三名の諸君が芽出度く卒業証書を授与された。福島学長の告辞、文部大臣を始め各方面よりの祝辞があり、本会を代表して西村会頭よりも祝辞が述べられ、卒業生を代表して黒柳千鶴君より、謝恩の辞が読まれ、厳肅かつ盛大に挙行された。

同日夕刻には、品川プリンスホテルにおいて華やかな謝恩会が開催され、新卒業生諸君も花にさきかけて春に酔っていた。

なお本会は、卒業式前日の二十四日午後三時より、母校第一講義室において、新入会員となられる学部並びに衛生士学校卒業生諸君を招待し、心ばかりの歓迎会を催した。越えて二十七日、東京歯科大学衛生士学校の卒業式が挙行せられ、二五名の諸君が杉山校長より卒業証書を授与された。

卒業生氏名

学部並びに衛生士学校の卒業生併せて一七八名の新鋭会員の胸間には本会から寄贈されたT、D、Cのバッジがさん然と輝いている。新会員諸君の前途を心から御祝いの次第である。

- (東京部) 金井邦子(東京都) 兼松隆徳(東京都) 田中延佳(東京都) 宇都尚武(北海道) 喜田正昭(新潟県) 小海優子(愛知県) 有賀準(静岡県) 丸山嘉彦(東京都) 松田秀之(青森県) 松山陽一(神奈川県) 水口晃夫(佐賀県) 三浦隆一(新潟県) 川上洋(新潟県) 森崇(島根県) 村田基生(静岡県) 中川武憲(宮城県) 南部淳(大分県) 成安浩治(東京都) 成瀬隆雄(茨城県) 大金正幸(神奈川県) 大須賀正(神奈川県) 大友好(東京都) 齊藤暢子(東京都) 清水秀雄(東京都) 荻原弥作(新潟県) 瀬高良一(愛媛県) 霜村静夫(鹿児島県) 篠第寿宏(北海道) 杉村仁(滋賀県) 住井泰之(福島県) 鈴木孝雄(福島県) 鈴木与志昭(東京都) 滝沢喜久男(茨城県) 田中啓行(茨城県) 寺田昭道(栃木県) 手塚和子(神奈川県) 浦辺貢(徳島県) 宇山幸博(茨城県) 山口悦郎(愛知県) 山口隆英(富山県) 山本啓介(高知県) 横矢重忠(群馬県) 山川祐市(愛媛県) 青野幸雄(京都府) 今井芳長(神奈川県) 原島稔(静岡県) 林隆夫(東京都) 秀守生(東京都) 本間忠夫(神奈川県) 石井恒(東京都) 石川道子(富山県) 石崎論(岐阜県) 伊藤清(東京都) 海洲馨一(宮崎県) 柿原昌一郎(長野県) 片瀬俊寿(東京都) 丹沢之彦(長野県) 小林喜久子(秋田県) 駒ヶ嶺克吉(長野県) 小山秀雄(神奈川県) 間宮亨(熊本県) 富田富美雄(岡山県) 水川秀海(青森県) 鍋谷聖道(岐阜県) 松島英二(石川県) 中井英夫(東京都) 岩田春子(北海道) 中里勇(茨城県) 延島三男(東京都) 小川定男(群馬県) 大塚昌助(三重県) 更家卓(東京都) 酒井潔(青森県) 佐藤剛也(愛知県) 沢国生(茨城県) 杉本幸子(山形県) 鈴木和夫(北海道) 鈴木道子(埼玉県) 高柳悦郎(東京都) 武田慎午(山梨県) 田辺久人(神奈川県) 土橋康男(福岡県) 酒井正利(神奈川県) ハツ橋康平(青森県) 梅原正年(栃木県) 柳川浩(鹿児島県) 若松晋(愛知県) 鷺津邦雄(熊本県) 渡辺吉明(広島県) 山下良一(埼玉県) 山岸昭平(茨城県) 小野瀬純男(東京都) 山本恭平(北海道) 山田進(島根県) 青戸泰吉(群馬県) 新井伸福(愛知県) 加藤正敏(東京都) 高橋和入(新潟県) 上松和夫(岐阜県) 吉田進(岡山県) 福島範明(千葉県) 池田漢(千葉県) 今関広信(北海道) 石井正男(愛知県) 磯部喜彦(静岡県) 神谷昭夫(茨城県) 金川一郎(山形県) 木村昭夫(愛知県) 成田三郎(青森県) 工藤幸男(富山県) 栗山純雄(静岡県) 黒柳千鶴(東京都) 吉井俊祐(宮城県) 松崎哲男(岡山県) 村上至(茨城県) 中川院(島根県) 野々村徹也(富山県) 大金雄(栃木県) 大久保雅順(新潟県) 小見尚(愛知県) 尾崎茂雄(千葉県) 大塚重雄(東京都) 佐野公人(静岡県) 佐々木淳(愛知県) 佐藤隆三(青森県) 清藤勇也(秋田県) 信太願孝(東京都) 清水秋雄(埼玉県) 飯正昭(新潟県) 塩谷明(山形県) 東海林修(東京都) 鈴木貞夫(静岡県) 鈴木章二(千葉県) 高梨恒一(大分県) 寺川国秀(島根県) 上田富康(千葉県) 宇野沢璋(静岡県) 渡辺甚一(大阪府) 八木博(愛

知県) 山田勝朗(青森県) 明本康正(千葉県) 内田宏(茨城県) 宮本公武(群馬県) 森下泰夫 褒賞授与者 黒柳千鶴

右者卒業成績が優等であるので高山奨学金を以て置時計巻個を授与する。 田中延佳

右者在学中の成績が優等であるので榎本奨学金を以て置時計巻個を授与する。 黒柳千鶴、岩瀬朗、中井英夫、石崎論、池田漢、水川秀海、石川道子、手塚和子

右者在学中の成績が優良であることを賞する。 田中延佳、岩瀬朗、石川道子、今井芳長

右者在学中業に精勵し、臨床実習成績も亦優秀に付き其賞として同窓会の寄託により同窓会賞を授与する。その他、皆勤者、精勤者、卒業論文優秀者等に、それれ賞状が授与された。

衛生士学校卒業生氏名

- (東京都) 箕浦嘉子(神奈川県) 下江千枝子(新潟県) 鈴木トキ(茨城県) 黒沢勝子(東京都) 丸山悦子(滋賀県) 榎三和子(埼玉県) 持田恵美子(千葉県) 小手幸子(愛媛県) 重見寿賀子(群馬県) 石井育子(東京都) 井出博子(千葉県) 池田幸江(神奈川県) 井沢孝子(北海道) 平井明子(岡山県) 森谷和子(福岡県) 高原紀子(静岡県) 佐藤美智子(山梨県) 長田晴美(東京都) 守谷登美江(東京都) 吉井啓子(石川県) 北貴美子(愛知県) 相羽佳江(東京都) 西村光子(神奈川県) 下山博子(神奈川県) 安東恭子

母校人事

新学年を迎え、母校に於ては、今般左の人事が四月一日付を以て発表された。

教授昇任	助教授(進学課程生物)	助教授(進学課程化学)	助教授昇任	講師(進学課程)	講師(市川病院耳鼻)	講師(本校内科)	講師(微生物)	講師昇任	助手(衛生)	助手(解剖)	助手(解剖)	助手(病理)	助手(市川病院内科)	助手(市川病院内科)	助手(市川病院内科)	助手(市川病院内科)	助手(市川病院外科)	助手(保存)	助手(保存)	助手(口腔外科)	助手(口腔外科)	助手(補綴)	助手(補綴)	退職	講師(市川病院外科)	近藤 義正
南部 実	河合 貞吉	中山 誠	坂本 英次	高添 一郎	藤村 千爾	恩田 良光	倉橋 和啓	高野 弘毅	長嶺 順	高橋 廉平	石川 達也	町田 幸雄	市川 暢夫	鈴木 和男	岡島 速雄	関根 弘	退任	東京歯科大学病院保存部、口腔外科部長が退任され、四月一日付を以て、保存部長に関根永滋教授、口腔外科部長に長尾喜景教授が就任された。	なお、放射線部が設けられ、部長に三崎針郎教授が就任された。							

# 血脇先生と奥村先生(その二)

中井武一郎

齒科醫師法は明治三十九年制定された。血脇先生の友人で眼科医東京市蓮出の川上元治公衆議院議員の提出により、両法を通過して制定されたのであるが、明治時代に齒科醫師法が制定されたのは、覆本積一、血脇先生の政治力のおかげといつても過言ではない。その後二度改正された東条内閣の国民医療法となり、更に現在の醫師法となつたが、二度の改正は何れも議員提出で、陰の運動は血脇、奥村両先生が中心であつた。故石塚三郎先生が衆議院議員時代の改正案演説、又委員長中原徳太郎先生の報告演説の原稿の起草者は奥村先生であつた。

大正三年の改正の時に、齒科醫師法に補綴が醫師法と明確に区別されたが、日本醫師会の反対が強く時の日本醫師会々長は北里三郎先生で反対總會が大手町の私立日本衛生会で開催された。血脇先生はその時、単身日本醫師会役員会に乗り込み改正案の主旨を力説された。その胆王の大きさに感心すると同時に、先生が如何に齒科に信念を持ち身に打ち込んでいたかを知るのである。

し、花沢先生は勉強もしないで飲む金はやれんと拒み、水野先生は引き出しからサイフを出してあつてもつけたりとなげつけつたがあとでもつけてみたらカラであつたそうだ。三先生の特徴のある風格がうかがえる。

酒二合と馬肉ねぎがそろつたので書生一同は景気よく始めた。坂が酔つた風をして奥の血脇先生に聞こえるようにさわいでいると、やがてこつそり障子を指で穴をあけると、ぞくもがある。なんとそれは血脇先生であつた。先生をまじえて大宴会がはじまつた。酒は次々と奥様に命じてはこばれた。

またこんなエピソードもある。奥村先生は、花沢先生は勉強もしないで飲む金はやれんと拒み、水野先生は引き出しからサイフを出してあつてもつけたりとなげつけつたがあとでもつけてみたらカラであつたそうだ。三先生の特徴のある風格がうかがえる。

ない、若し、それでも万一、償還不能の場合には、東京歯科に限り米山私財を以てて辨償する」と云うことで、万事O・Kとなるた。

東京歯科が期間通り、一日も日を違えることなく、元利全部を返済した。私の親類の者で、昨年まで、三井信託の重役をして、いた者が居たが、この学校を強く信用していた。

血脇先生は学問的論文というものは殆どなかつたが、研究者学者を養成した人であつた。赤貧の裡に野口英世博士を育成し、政界人齒科界人にも多数の人を後援した。奥村先生には、野口英世の如き金星はないが多くの人々を御世話後援したが、世間には知られていない。寄辺ない小学校の恩師山本道生先生の老後の御世話死後の石塔までも私財をもつて、私の同期生大西英隆君の死後に慶応医学部に在学中の大西の子供に書物代を贈つたり数々の陰徳がある。

奥村先生は研究心には燃えていたが、学校の経営と歯科医政運営で余裕がなかつた。しかしながら歯牙解剖学の咬頭連合と、根管分岐状態、齶蝕細菌、飲食物の唾液による酸酔性等の研究業績がある。先生の健康管理徳育、体育に力を尽された。市川運動場の整備又学生の結核検診は世界に於ける集団検診の嚆矢であつた。またこんなエピソードがある。ある入学試験のとき受験生の一

奥村先生の奥様は沢田半之助さんの御嬢様で、血脇先生御夫妻の媒酌で結ばれた。結婚当時は本郷真砂町に新居を構え、後に代々木、四谷、伊賀町、駿河台、高田馬場、目白、文化村など住居は転々としたが、目白で戦災をうけ一時葉山、目黒に住

最後は世田谷谷津巻に居をトシ慶応病院にて、七十七才を以てて永眠された。血脇先生は七十八才で十三年前の二月二十四日、奥村先生は本年二月四日幽冥所を異にしたのである。また花沢先生も命日は二月二十四日である。

また血脇先生は卒業生によく揮毫物を贈られた。最も多く書かれたのは狂歌一世の中は五分の真味に二分狭気あとの三分は茶目で暮せよである。天籟と号し還歴後は半仙と改めた。奥村先生は玄裳と号し立派な書家であるが揮毫物は僅少である。先生は青山不老、緑水永在、日々是好日、壺中日月長などの神語をよく書かれた。先生の書かれたものは私書が少々もつているが私物にはせず、学校に保管してもらふことにした。

立派な色紙があるが、覆本福島両先生に一枚づつさし上げた。

血脇先生は酒席で興至れば磯部の「山で赤いのはつじと椿」を歌い御氣廉がよければハゲ頭に捻り鉢巻で「ナスとカボチャ」を踊るといふ茶目があった。

血脇先生が遠藤至六郎先生を同伴して欧米に旅行され時に壮行会が茅町町の借楽園で催され金杉先生の壮行の辞は「血脇君が欧米に出かけるが郷に入つては郷に従へ」と云ふ諺がある。欧米に行つたら酔て手鼻をかむ事と立小便は慎む様に」と云はれ草で先生の半面を雄辨に物語る笑いだである。

節で「行くよ仙台石の巻」を歌つたが、昭和になつてからは北陸民謡の「浮いたか瀧草履そうに流れる行く先は知らねどあの気になりたい」が十八番であつた。

血脇先生は易を修め、世相、学校の運勢を占う等興味を持つていた。奥村先生は歌舞伎に興味を持ち、桃中軒雲右エ門の義士銘々伝、大阪の女義太夫呂昇、歌舞伎の観賞家で、役者の型、台詞、舞台装置を批判した。又岡本綺堂作の先代左衛門物には熱を上げていた。説物は史伝物にすて三國史、里見八犬伝芳流閣上の大塚信乃の一節は暗誦され、森鷗外の即興詩人は愛読された。

血脇先生の好物は酒で奥村先生のは塩センパイと牛肉である。

以上の話は年次的にいくちがいがいはあるかもしれないが、筆者が血脇先生御夫妻及び奥村先生から直接うけたまわつた話であるので間違ひはないと思う。又紙面の都合で他に記載したのもや、広く知られていることはふた。

高山歯科医学院時代の現在生存者は大村一男、群馬の田部井己之八両先生と四國に一人生存されているだけである。今のうちに資料を集めておけば血脇先生の編纂も可能であると思う。

終りに永く血脇先生の学風を千古に残したい想いで拙筆を置く。

▲お願  
わが教室は、抜去歯牙を研究材料として、歯冠継続歯その他の色々の問題を検討していますが、多数の抜去歯牙を必要としますので、その入手に困つております。永久歯でも乳歯でもかまいませんから、御寄贈願ければ幸いです。何卒お願い申し上げます。本学補綴学教室 北村 勝衛

井上副会頭  
東京都歯科医師会長に  
当選就任さる



長村田氏と決選の止むなきに至り投票の結果八十二票対四十四票を以つて芽出度く当選せられた。

なお、本会員中から中村正夫君(本会幹事)が専務理事に、大久保晴正、安島宜忠の両君がそれ、理事に就任された。

本会副会頭井上真君は、過般の東京府中長京都府長医師会会長に改選に当り、前会

地方選挙ニユース

前号既報の如く、今年は来る六月の参議院戦を始め、県会、市会、区会と各地方選挙が華々しく開幕されている。本会々員よりも多数出馬せられてゐるが、目下判明の立候補会員は左の通りである。

- 東京都 (東京都議会) 吉峰長利君、大村太子二君(中央区議会) 塙真一君(文京区議会) 赤池一君(品川区議会) 渡部岩重君、安藤弘君、川島平三郎君(目黒区議会) 藤江義三君、菊地通君(渋谷区議会) 高橋初太郎君、佐川文彦君、吉峯登君(板橋区議会) 三沢喜久雄君(荒川区議会) 久木信広君(足立区議会) 重松三幸君(府中市議会) 矢島源太郎君
- 千葉県 (千葉県議会) 井上裕君
- 長野県 (長野県議会) 鈴木義三郎君(上田市議会) 柳沢清一君
- 静岡県 (静岡市長) 山田順策君
- 青森県
- 参院全国区選挙戦に思う
- 来る六月二日には参議院議員の選挙が行われる。云うまでもなく、参議院議員には地方区と全国区と二種の別がある。わが歯科界のみならず、各種職能代表者は全国区に響を並べて立候補するのは、この全国区の方である。
- 選挙区が広汎であるため選挙活動たるや並々のものでない。先づ組織票が第一に物を云う。先年の例でも宗教団体、日教組等の進出ぶりが世間を驚かした。
- 歯科界からも林、竹中の両氏をこの全国区から押し出した。殊に三年前の竹中氏の当選振りを、歯科界の強さを大きく国内に認識させた点、我々一同の慶びも深かつた。
- この時の得票は三十七万三千六百六十票を得て、堂々上位に進出した。当時の日本歯科医師会の会員数は二万五千七百九名、従つて日歯会員

- (青森県議会) 鈴木禮君(青森市議会) 佐藤静郎君(八戸市議会) 橋本勝郎君(黒石市議会) 清藤三津郎君(三沢市議会) 黒田政之進君
- 兵庫県 (兵庫県議会) 矢野善寛君(姫路市議会) 青田寿二君
- 長崎県 (佐世保市議会) 渡辺一郎君
- 愛知県 (愛野町議会) 白田昌三君
- 香川県 (内海町議会) 炭山正樹君
- 福岡県 (筑後市議会) 高山軍一君
- 熊本県 (鬼田町議会) 本田憲男君
- 神奈川県 (神奈川県議会) 神野長太郎君(横浜)
- 一名当りの票数は一四、四票となる。多い所では徳島県の三八、二票、兵庫県の三三、四、香川県の三二、九、群馬県の二七、七等がある。逆に少ない所では東京の六、一と云う事になる。所で参院全国区立候補者は漸次精衛主義的傾向を示している。
- 恐らく今年の選挙で三十七万位の票では前回の竹中氏の順位には遙かに劣るだろうと云うのが選挙通の観測である。六年議員確実と云う線は、まづ最低が五十万票だそうである。
- 今仮りに我が同窓会員六千が打つて一丸となり力を合わせた所で、本人だけの票なら六千票、奥さんと他に家族一名計三名と云う所で一万一八千票、一寸これは問題にならない人によつては参議院の選挙は楽だ」と云う。その理由は、区会、県会、市会と云うと運動が大変困難である。村会議員に立候補して得票実一票と云う人もある。隣りは誰を支

智才逸才

政界諒物誌に  
見る鹿島氏評

「政界諒物」三月誌上に智才逸才と云う傍見出し、積極果敢な行動派信念に生きる人材との見出しを付けて、本会幹事、日歯専務理事鹿島俊雄君の人物評が載つてゐる。

「参院選近しとの機運と共に金のねらう古豪、新顔の出馬名乗りをみると、まことに多士多様の感がある、殊に新顔の中には隠れたる逸材

持するかも知れない。この点参院全国区となると話しが違つて来る。大抵の人は一体誰れに投票して良いか分らないのが実情である。一人の歯科医が、歯科界から一人でも議政壇上に代表を送る決意があれば、五十人や百人の支持者は得られる筈だとするのが楽観論者の云い分である。

小学生の算数にしてからが、六千人が一〇〇人の支持者をそれ、動員すれば六十万となり、五十人とすれば三十万となる。しかし、これは数字である。

絵に書いた餅は喰えないと同様数字では事は運ばない。

要は決意であり、熱意であり動きである。現今の「せちがらみ」世の中では他人の業界の代表を頼まれぬせぬに担ぐ物好は居ない筈である。今年の参議員全国区には何如なる業界がその代表を送るか、議員団の写真が日刊紙上を飾るのを楽しみに眺め度いものである。

がちらほら目立つのも頼もしい限りだ。

さて隠れたる逸材を探り出すとしてイの一番に堀り当てたのが、日本歯科医師会専務理事、医学博士鹿島俊雄氏である。」と書き出し、「新顔とはいへ、その政治的抱負と意見はなかなか堂々たるものである。政治は国民生活と密接不離であるという信念の下に特に医療と国民生活とそは切つても切れない関係にあるとし「現在の社会保険制度は大いに改革しなければいけない」といふ。さらに「社会保険医療制度は不合理な点が多くあるのだ」とズバリ断言した。氏は現に社会保険制度審議会委員であり、中央社会保険医療協議会委員であることから、現在の社会保険制度や、社会保険医療制度を大いに改革したいという抱負は、まことにまだし難いものがあるのだと、いえよう」と同君出馬も無理からぬ状況と認めている。

続いて「明治四十年生れで羊の歳だというのが、エトウに似ず堂々たる体躯だ。学生時代には柔道や水泳などできたえたと云う強健な体と血色のよい顔面から一見して四十才そこそこししか見えぬ若さで全身に満ちて居り、接する者に親しみを投げ与え、信頼感を持たせずにはおかない風格が見受けられる。(中略)」こんなにも全国三万の会員を擁する日本歯科医師会専務理事として活躍している人物としてはまことに相応しい信念の持主だといえよう。」とベタボメのうちに人物評を終えてある。われわれも同窓として一読まことに愉快な人物紹介である。御手近に同書があつたら一読をおす、めする。

学位受領者紹介



栗山 美子君  
クリヤマミコ  
コさんは、大正  
一一年の東京生  
れ。昭和二十四

年東洋女子歯科医専を卒業するや、直ちに国立東京第一病院歯科に勤務され、その後、部下清瀬町の国立東京療養所歯科へ転任された。国立東京療養所医長は私の部屋で学位を取られた同窓である佐藤水治博士で、院長の絶大な援助と理解の下、勤務のかたわら、わが微生物学教室に勉学に来られるようになったが、間もなく退官し、研究に専念されたこととなった。研究テーマは感染免疫で、主任教授米沢和一博士の下、私の直接協力によりついに白血球食菌現象促進物質で耐熱性のバクテリオトロピンを完成された。

かねて提出中の論文は昭和三十三年七月二十一日金沢医科大学教授会において主査谷友次教授のもと満場一致通過、越えて八月二十九日栄えある学位記が授与された。  
新博士は至極健勝で現在は独身。世田谷区新町二ノ四一六の自宅には茶道師範のご母堂がおられ非常に親孝行の人である。ライオン歯膏小林社長夫人の御御に当られ、今後共歯科臨床に貢献されんことを切望致します。慶祝。  
○主論文(一編) (橋口綿徳記)  
唾液バクテリオトロピンに関する研究  
十全医学会雑誌第六〇巻第七号  
昭和三十三年七月  
○参考論文(七編) 略  
以上



相場 市良君  
アイバ・イチ  
ロウ君は、群馬  
県の子で中井  
武一郎博士の出

身校太田中学を経て母校に進まれ昭和七年卒業の私と同期生である。直ちに慶大歯科教室に入室、当時の岡田講教授の下に足かけ十年臨床に従事せられた。同十四年六月郷里に程近い太田市に中島飛行機病院が出来ると当時の医長山本謙吾博士共々慶大より派遣されて歯科を新設、同十七年同県小泉工場増設にあたり医長として赴任された。同工場終戦で閉鎖されるや直ちに同君は足利市に日本医療団足利地方病院を同志と共に設立、自ら医長になられたが、同十四年日本医療団解体と同時に日本赤十字病院に移管され、自ら歯科部長となられ今日に及んでいる。先年勤務のかたわらわたしの教室の門をたゝかれ細菌学では不明の部分の多いピライシスの免疫に取組まれることとなり、奮闘の甲斐あつて立派な論文を完成された。かねて提出中の論文は昭和三十三年九月十五日の金沢医科大学教授会において主査谷友次教授のもと満場一致通過、越えて十月二十八日付栄えある学位記が授与された。

新博士は生来頭健で、今でも群馬県山田郡矢場川村二九六六の自宅から病院まで自転車朝晩二十分の距離を通勤されている。  
趣味はもつぱらスポーツで、十年前までは野球、テニス、バレー、スキーと若人達にまぎつて盛大にやっておられた由。尺八も相当の達人。  
○主論文(一編) (米沢和一記)  
「ピライシス菌の凝集反応に関する研究」  
十全医学会雑誌第六十巻第八号  
昭和三十三年八月  
○参考論文(略)



藤正 謀夫君  
フジマツ・ウ  
メオ君は、私と  
同年で明治四十  
二年の生れ。広

島県山県郡豊平村の出身。  
昭和九年母校卒業直ちに母校衛生細菌学教室(主任奥村鶴吉教授)に在籍のまゝ、横浜市榊原勇吉氏の歯科医院に勤務。昭和十四年より名古屋市教育体育課に転勤し、現在は市役所の課長に昇進されている。その間名古屋市立歯科医会理事に就任(現在は参与)、同三十年日本学校歯科医会理事と言つた数々の要職に就かれています。君は人を知る藤正政人博士の舎弟に知り、卒業以来奥村前学長の特別の知遇を受け、勤務の傍ら私の室で多年研究に没頭せられ、最近これを取りまとめられて金大医学部に論文を提出され、去る二月二日の教授会にて主査谷友次教授のもと論文が通過し、越えて三月六日付栄えある医学博士の学位記が授与された。

新博士の名古屋市千種区天満通り一丁目五番地の自宅には夫人との間に一男一女があり、勉強以外にはこれと言つた趣味はない様で、格闘精神、地味で円満な家庭の主人公と言つた按配です。然しこの二月で満五十才、やがて恩給でもついたら、どこか適当な地域で歯科医業を再開、一旗も二旗も挙げかねない元氣である。好漢自重自愛されるよう祈つてやまぬ。  
○主論文(一編) (米沢和一記)  
慶祝。



似鳥 武雄君  
ニトリ・タケ  
オ君は明治三十  
八年千葉県の  
岩家に生まる。

私立佐倉中学を経て母校に入学し、県と同校の昭和三年卒業。その後、一旦都内柳橋で開業せられたが昭和十一年春、江戸川区小岩町四ノ一九四〇にある似鳥家に入られ、こゝで歯科医業を再開せられて今日に及んでいる。同二十二年、同区歯科医師会副会長、同二十八年会長に就任せられているし、又同二十七年区立小岩中学校校長となり共に今日に及んでいる。しかも令夫人は区議にもなされた土地の顔役でもある関係上、小岩の事情に精通せられ、かつ令息義雄君は母校大学一期生として水道橋の学部に通学中であつたのが縁で同二十五年六月学童歯牙検査の際、都内で初めて班状歯を発見するの幸運に恵まれた訳である。かつ同二十六年四月母校米沢教授・森山講師の小岩班状歯確認となつた。米沢教授の縁故で四月三日の内外タイムス紙上に詳細公表せらるるところとなり、ここに同教授を顧問に戴き班状歯研究所を診療所内に併設し自ら所長となり都庁当局その他各方面の協力を得て研究を続行して今日に及んでおられると言つた、開業医としては希に見る篤学家である。尙、先年、母校微生物学教室に正式に研

究生として入室せられ帆足望博士等の協力を得て学位論文の完成に精進せられたかゝつて、慶大に提出中の論文は去る一月二十六日の医学部教授会にて草間教授主査の下満場一致通過、越えて三月三日付栄えある学位記が授与せられた。慶祝。  
○主論文(一編) (畑孝康記)  
班状歯に関する歯科衛生学的研究  
○参考論文(五編) 略  
以上



平岡 輝明君  
昭和二十九年  
は福岡市の父君  
のもとに帰省、

三〇年六月九州大学医学部大学院に入学を許可せられ、爾來同窓寄生虫学教室にて鏡意研鑽の上、先頃同大に学位論文を提出中の所、昨年一月二十九日万場一致を以て同窓教授会を通過、去る三三年一月めでたく学位記を授与せられた。真に慶賀に堪えぬ所でありませらる。因に同君の謙文心輝博士も同窓細菌学教室の御出身で、現に福岡市で盛大に御開業中で、父子二代におたる榮冠に際し敬意と祝辞を呈する次第であります。(高 達記)  
○主論文 トキソプラズマ症の研究 (第一編第二編) 以上

鈴木 央君  
スズキ・ナカ  
バ君は明治三十  
二年静岡県船原  
に生れ本年將に  
六十才の還暦、大正六年東京歯科医  
学校卒業、同九年若冠二十才にして  
文検合格直ちに乞われて当時東大前  
に盛業を続けて居られた海老原厚氏

の診療所に勤務された立志伝中の  
人、壯者を感ぐ感と純体とは、徒  
に安閑として隠居の生活を快とする  
ことができず、事業は専ら令息（昭  
和二十二年）に委ね、昭和二十五年  
四月私の教室に専攻生として入室、  
若い青年学徒と共に日夜研究を重ね  
て数々の論文を発表されていたが、  
昨秋十年完成した研究業績を主論文  
として東京女子医科大学に学位請求  
中であつたが、村瀬正雄教授主査の  
もとに慎重審査の結果きわめて優秀  
なる研究業績を認められ、旧臘十二  
月十九日満場一致の賛成を得て同大  
学教授会をめでたく通過、越えて本  
年一月二十二日付にて栄ある学位記  
が授与された。

誠に慶賀の至りで、心から祝福申  
し上げる。

大正十一年現在の雄司ヶ谷に診療  
所開設以来、東京府歯科医師会代議  
員をはじめ、各種役員を依頼され、  
そのいづれの仮職にも誠実をもつて  
責任を果して来られたことは、酒も  
煙草も嗜まない氏の性格とともに衆  
望を集めていられたが、今回の榮譽  
は錦上さらに華を添えられることと  
信ずる。

研究継続中も、氏の主論文が世界  
に例のなかつた乳歯の感染根管問題  
であつたため、幼犬を使用していた  
が、飼育にきわめて困難で教室の動  
物舎ではほとんど斃死したので、つ  
ねに四五頭の幼犬を自宅に持ち帰り  
飼育を続けて居られた。いざ殺して  
標本を作製する段取となつたら、御  
家族が情が移つて強硬に反対されて  
大いに困られた挿話である。

幸に壮者も及ばない健康体の持主  
であられる同氏の今後の活躍を、刮  
目して期待する次第である。（松宮  
誠一記）

主論文 乳歯の感染根管治療に関する

る実験的研究 他に参考論文五編  
岡本 伝君  
岡本君は愛知  
県豊橋市の出  
身、昭和十年三  
月母校を卒業。  
翌年、現在地の港区芝浦に歯科病院  
を開設。二十一年三月には慶応医学  
を卒業して、第一回医師国家試験に  
合格。二十三年八月同所に産婦人科  
を増設して今日に至つている。  
この間医療法人第一号の許可を受  
けて、二か所に分院を増設するなど  
医業の発展に努力された。一方、公  
職役員としては、母校の同窓会幹事  
のほか十指に余る支部長、会長等の  
要職を兼任して、全く文字通り八面  
六臂の活躍をして来られた。岡本君  
はこのように多忙な中において、二  
十九年四月に注意を決して細菌学の  
研究を志して、相沢憲教授の指導の  
下にて、初め東京医科大学、その後、  
日本大学医学部細菌室に入られて  
て、癌の免疫学的研究という至難な  
学位論文の完成に精進されることに  
なつた。そして芽出度く結果した、  
かねて提出中の論文は本年一月二十  
三日同大学医学部教授会を満場一致  
通過、四月上旬に栄ある学位記が授  
与された。



岡本 伝君  
岡本君は愛知  
県豊橋市の出  
身、昭和十年三  
月、昭和十年三  
月母校を卒業。

新博士は繁子夫人との間に三男二  
女あり、皆秀才型で至極円満な御家  
庭である。今後一層の御活躍を待望  
するとともに御健康を祈るものであ  
る。

主論文

（木村吉太郎記）  
エールリッヒ腹水癌の免疫学的

副論文

吉田肉腫の免疫学的研究 以上

菊地皓一君  
石川県立輪島中  
学の出身で、昭  
和十九年母校卒  
業、後海軍々医学校を経て、昭和二  
十年十二月海軍々医中尉として、復  
員された。同君は、母校卒業に際し  
て、臨牀成績優秀賞を授与された。  
事実、診療面に於いては、甚だ優秀  
な人であり、戦後は、郷里石川県に  
帰り、栗津病院に勤められ、その  
後、石川県立中央病院に歯科医長と  
して転任、診療に従事されて居られ  
た。然、同君は、他方、学究的な面  
にも、一段と旺盛な情熱の持主であ  
り、それが為、遂に、その念押え難  
く、昭和二十六年金沢大学医学部法  
医学教室に入学生され、井上教授指導  
下にて、研究に従事されることになつ  
た。以来、歯牙硬組織の窒素含有量  
に関する研究、歯牙の透明度に関する  
研究、或いは歯牙の血液型に関する  
研究等、歯科法医学に於ける数々の  
研究を完成された。茲に於いて、  
三十二年十月、金沢大学医学部教授  
会に論文を提出され、翌年三月、満  
場一致通過し、越えて五月二日付榮  
ある学位記が、授与された。今同君  
は、三児の父として、石川県泉上町  
にて開業されて居られるが、尚、依  
然として、前記教室に専攻生の席を  
置かれ、診療の傍ら、黙々として、  
学究の道を歩んで居られる。



菊地皓一君  
石川県立輪島中  
学の出身で、昭  
和十九年母校卒  
業、後海軍々医学校を経て、昭和二  
十年十二月海軍々医中尉として、復  
員された。同君は、母校卒業に際し  
て、臨牀成績優秀賞を授与された。  
事実、診療面に於いては、甚だ優秀  
な人であり、戦後は、郷里石川県に  
帰り、栗津病院に勤められ、その  
後、石川県立中央病院に歯科医長と  
して転任、診療に従事されて居られ  
た。然、同君は、他方、学究的な面  
にも、一段と旺盛な情熱の持主であ  
り、それが為、遂に、その念押え難  
く、昭和二十六年金沢大学医学部法  
医学教室に入学生され、井上教授指導  
下にて、研究に従事されることになつ  
た。以来、歯牙硬組織の窒素含有量  
に関する研究、歯牙の透明度に関する  
研究、或いは歯牙の血液型に関する  
研究等、歯科法医学に於ける数々の  
研究を完成された。茲に於いて、  
三十二年十月、金沢大学医学部教授  
会に論文を提出され、翌年三月、満  
場一致通過し、越えて五月二日付榮  
ある学位記が、授与された。今同君  
は、三児の父として、石川県泉上町  
にて開業されて居られるが、尚、依  
然として、前記教室に専攻生の席を  
置かれ、診療の傍ら、黙々として、  
学究の道を歩んで居られる。

主論文（二編）  
（田村八郎記）  
歯牙の窒素含有量に関する研究  
第2巻第2号及び第3・4号掲載）  
参考論文（略）

主論文

（田村八郎記）  
歯牙の窒素含有量に関する研究  
第2巻第2号及び第3・4号掲載）  
参考論文（略）

副論文

各地同窓のうゝき

豊橋豊徳会

余り広い市でもないのに、どうし  
た都合が昨年八月より当市の会員が  
顔を合せる様子をもたないので、誰  
云ふとなしに一堂に会して雑談を交  
してはとの声に本年度の当番者伊藤  
哲、辻村博夫の両君の御骨折で去る  
二月八日久々の懇親会を豊橋市松葉  
町吾妻家で開催いたしましたので、  
その模様を御知らせいたします。

型通の開会を辻村君述べて、次いで  
会長西村先生新年初の会合にあたり  
昭和三十四年も益々団結を緊密にし  
親密度を深め内外共に立派なグルー  
プでありたいと述べ、次ぎに母校よ  
りの連絡事項を一括して報告し、最  
後にもつとも悲しむ可き奥村名誉学  
長の御逝去の知らせをいたし一同し  
ほしの黙祷を捧げ先生の御冥福を祈  
る。

扱て此の間に女中さんの酌膳を完  
了したとの知らせに一同膳に向ひ祝  
奠に入る。各個に盃を交す程もなく  
当番先生の善な計より当市一流のキ  
レイドコロの御入来になり座は急に  
明るくにぎやかになり、盃の回数も  
様々に増して各所に快談、笑談、肩を  
叩き合つて喜んで居る。何処の会も  
同じ盛會。宴將に酣!! と表現すべ  
きか。水道橋に育つた者のみの味ふ  
極めて家族的な上下先輩後輩の区別  
のない無礼講で時間のたつものしば  
し忘れてみんな学生時代になる。

午後三時より始めたのに外は暗く  
なつてしまつた。当番伊藤先生時宜  
をみて一応閉会を告げ、次回は五、  
六月頃新しい企画で会を開くこととし  
みを持たせて開散す。然し三々五々

豊橋豊徳会の名称について全国同  
窓の諸先生に御説明しておきます。  
話は古く大正年間故血脇守之助先  
生偶々わが愛知県に御来訪の節、郷  
土の英雄豊生秀吉の豊と徳川家康の  
徳の二字を合せ豊徳会と命名下さつ  
た事により愛知県同窓会は特に愛  
知県豊徳会と称してゐる次第で、愛  
知県の各地でわ夫々の地名を略して  
例へば豊橋、岡崎等の如く、地名豊  
徳会と称してゐる次第です。  
二伸

当日の出席者氏名は工の通り順不  
同。  
西村植裕、城所定雄、加藤一郎、山  
本弥市、大須賀彦一、藤城武、神山  
英夫、白井智、西村秀裕、彦坂武、  
伊藤哲、辻村博夫、山本卓、太田俊  
彦、彦坂記  
以上十四名

クラス会便り

一期会

全国各地で御活躍中の「一期会」  
の諸兄には、その後お変わりなく益々  
多方面に御発展のことと存じ、心か  
らお慶び申し上げます。

「暑さ寒さも彼岸まで」とは誠に  
「そのものズバリ」というところ  
で、今日このごろの東京地方は本当  
によい彼岸日であります。

さて、「一期会」について、その進  
我々も「一期会」について、その進  
むべき道とか、行事などについてい  
ろいろ考え悩んでおりますが、

「下手な考え休むに似たり」とか、具体的に一向に事が運びませず、誠に申訳ないと思存します。実はこのクラス会だよりも前回の同窓会報に掲載してもらおうようにお願いしたのですが、編集の都合で削られてしまいました。そこで今回此処にお知らせ致しますことは、やや旧聞になりますが、取敢えず御報告しておきます。

即ち第六回一期会(関東地方プロツク会)は、昨年十一月二日中央本部主催のもとに、本郷の清雅荘で開催されました。丁度「大学院開設記念大学祭」が開かれており、また案内状を差上げた処、北海道、三重、広島等の各地方プロツク会員諸兄の遠路久々の御参加をえることができました、総勢三十四名という盛会を極めました(詳細はしづれ「一期会だより」でお知らせします)。

高、本会におきまして会則にもとずき役員の変更が行われ、莊会長に代つて新しく見明君が会長に就任することになりました。又、総務片倉君が諸事多忙のため引退され、宝田君が後任に推され決定致しました。その他、各地方支部会における支部長及び副支部長も一応任期満了ということになりましたが、引続いて二ヶ年間そのまま留任下されるようお願いすることに決定しましたので、何卒よろしくお願い致します。

次に級会雑誌「一期会」(第一号)を原稿の集まり次第に出版発行致したいと思存しております。御投稿下されますようお願い致します。では諸兄のより一層の御活躍と御自愛をお祈り致します。

第六回一期会出席者及び新役員出席者・西村、岩井、泉地、莊、安藤

高橋、佐藤(治)、鍋木、関根、中川、阿部、津島、鮫島、福田、今井多胡、田口、北原、香山、安江、見明、山本、倉繁、原、羽賀、田所、佐藤(徹)、石塚、三宅、三浦、杉山、中村、宝田、黒須、新役員・総務・見明、莊、津島、宝田、中央本部・会長・見明、副会長・莊、関根、庶務・羽賀、田所、企画、倉繁、佐藤(徹)、地方支部長・高橋、泉地、川口、嵯崎

昭 久 会

会費、原稿送付依頼であけくれまして二ヶ年最後の報告をします。結論より、二月十五日、新幹事安達直、高橋誠、に事務引き継ぎを完了しました。新幹事二人は御存じの如く責任感も強く、その道のベテランでもあり早々に口座住所変更も完了、従つて事務所並びに口座新住所は、

東京都大田区田園調布四ノ一七〇 安達直歯科医院方

に変更になりました。又、鋭意、新委員の選考に熟考、新企画にて面目刷新スタートをきらんと準備中です。よろしく、御期待、後援下さる様、差出がましい事ながら御願ひします。

さて省れば、至らぬ事ばかりながら不馴れの我々を御指導御協力下さつた諸兄に深く感謝します。小生自身にもよき経験並びによき思い出となる事ばかりでした。

わけても「京都大会」に残念な事が吉田の急逝に殊に学生時代と席も近く補綴実習では常に世話になった彼が忽然と住む世界を異にした事は京都大会で誰か冗談に「二十五周年九州大会には欠ける人があらず乾かす」と言つた舌の根もまだ乾かず又大会感激の思い出もせううち

に之の現実、二ヶ年が短かつたのか長かつたのか思い迷います。生者必滅、業にありて苦を忘るる、声なき声も聴く思いがします。ここに終生忘れ得ぬ吉、凶、二重の感傷を諸兄に披露して重ねて諸兄の表裏なき御協力を深謝し、二ヶ年在任中の御批判、今迄通りの御指導、御つき合ひを御願ひします。最後に山中、堀、鈴木嘉氏始め他の諸委員に多大の御苦勞をかけた事、之の紙面を借りて御礼申上げます。

諸兄にはまず、御自愛、御発展、九州大会は京都大会より以上の盛会となる様祈ります。(此の事は吉田も生前言われていた事です。：附言：...)その時諸兄に会うのを楽しみにして居ります。安達直記

五 十 鈴 会

五十鈴会の諸兄御変り御座居ませんか、二月七日母校クラブ室に於て今秋に行うクラス会の件につき、有志の御集りを願ひ相談致しました所、第十回目になるのを記念し盛大に挙行する事になりました。概要次の通りです。

一、日時 十一月二日(月)午後現  
一、場所 熱海か伊東方面の予定  
一、会費 参千円(宿泊、宴会費)  
旅費は含まず、旅館等の  
関係により前納の事  
一、在学中のクラス主任を御招待する。

尚詳細は実行委員により検討の上決定次第、本誌上に発表致します故振つて諸兄の参加を期待しております。

七 星 会

松尾(宗) 会員諸兄には、御元気で御活躍の事と存じます。昨年十一月に開催されたクラス会に就いては先般クラス会誌上に御報告致しましたが、その節の写真を御覧に入れます。御参会になれなかつた方は、先般の御通知にある参会者の名前と較べて、どれが誰だか考えて頂き度いと思ひます。それでも思ひ出せない方は、是非「本年の七星会に御来会下さい」。

なお、六月に開催予定の愛知県での七星会も、県下の同級生諸君の御骨折りで着々計画が進んでいる模様です。いづれ御通知状を差し上げますが、左の通り決定致しました。(十六日(土)午後五時、犬山城山荘集合、懇親会後一泊十七日(日)日本ライン下り穂積君を始め愛知県在住の同級生諸君が御世話して下さいに相成つてい

ます。乞御参加 (在京幹事)

逝 去 会 員

- 小椋 義明氏 一三 江東区
- 酒井 祐雄氏 一六 新宿区
- 中島 英雄氏 三三 港野区
- 齊藤 三郎氏 三三 長野区
- 中島 弥布氏 一三 長野区
- 小野 寺金吾氏 三三 目黒区
- 魚島 純三氏 三三 新東区
- 小野 沢与四郎氏 三三 台東区
- 齊藤 秋次郎氏 三三 千葉区
- 滑川 要吉氏 三三 秋田県

現 任 所 変 更

- 松宮 誠一(5) 杉並区西田町一ノ七七三
- 倉持 清 3 横浜市戸塚区汲沢町二二七
- 永田 利治 米千市加茂町一ノ三六
- 大谷 雅夫(27) 浦和市岸町四ノ八〇
- 大橋 健二(27) 名古屋市中種区希望ヶ丘三ノ九一
- 桑ヶ谷 八郎(17.9) 名古屋市中昭和区天白町大字八事字鶯谷四四
- 鈴木 義政(24) 松本市外横田四一五
- 竹原 茂久(31) 〇山陽パルプ附風病院
- 杉浦 勲(24) 〇杉並区馬橋四ノ五
- 木本 至晃(33) 〇京都市左京区高野
- 西垣 正光(25) 〇茨城県那珂郡大宮町
- 更家 佐(32) 〇杉並区高門寺三ノ三二〇
- 多田 詩(14) 〇盛岡市上田八幡森八ノ五
- 長屋 文男(79) 〇名古屋市中区光音寺町字野方一九〇
- 恩田 千爾(30) 〇千代田区神田三崎町一ノ七 戸村方

